

# 現代日本語の若者言葉の構造と造語法による分類\*

金晞泳\*\*

## <目次>

1.はじめに	4. 本論
2. 先行研究及び問題提議	5. まとめ
3. 調査資料及び方法	6. 参考文献

Key Words : 若者言葉(young people's words), 流行語(a buzzword), 世代語(generation words), 造語法(word formation), 不透明性(opaqueness)

## <요지>

### 현대 일본어의 젊은이들의 유행어의 구조와 조어법에 따른 분류

김유영

본고에서는 선행연구 기반으로 '젊은이들의 유행어는 10대 전후로부터 30대 전후의 젊은이들로 구성된 집단에 의해 유행되기 시작한 말'이라고 정의하고, 다수의 텍스트 데이터에 출현하는 젊은이들의 유행어에 관한 분석을 실시했다. 이를 통해, 일본 젊은이들의 유행어는 그 내용을 담고 있는 '컨텍스트'와 그것이 구현되는 형식인 '어구상'이 '매체'의 영향을 받아 '블투명성'을 높이는 것을 통해 형성된다는 점을 명확히 했다. 또한 이를 바탕으로 젊은이들의 유행어의 조어법의 특징을 분류하고 정리할 수 있었는데, 이를 간단히 정리하자면 다음과 같다.

#### <젊은이들의 유행어의 조어법>

##### a. 어구성에 의한 조어법

\* 이 논문은 2014년도 동덕여자대학교 연구비 지원에 의하여 수행된 것임 (연구번호: 201403284). This study was supported by the Dongduk Women's University grant(No. 201403284).

\*\* 김유영(同德女子大學 日本語學科, 助教授), 日本語語彙論·コーパス言語學

- ① 음의 전환, ② 표기의 전환 - 1) 문자, 2) 매체의 변화·기술의존
- ③ 축약, ④ 확장, ⑤ 재배열, ⑥ 추가, ⑦ 파생 - 1) 동사파생, 2) 형용사파생
- ⑧ 단계·반복, ⑨ 전환, ⑩ 의성어·의태어

##### b. 컨텍스트에 의한 조어법

- ⑪ 언어유희, ⑫ 전용 - 1) 비유, 2) 반어, 3) 방언, 4) 고어
- ⑬ 태도 - 1) 애매함, 2) 신新경어, 3) 과장
- ⑭ 젊은이들의 문화 - 1) 유명인, 2) 유행, 3) 집단문화

## 1.はじめに

言語は変化する。新しい言葉が生まれる一方で消えていく言葉もある。言葉だけではなく、文法もまたゆれて変化していく。このような変化する言語環境の中で特に「日本語の乱れ」とも言われている言語現象が存在するが、それは若者言葉である。本稿では、このような日本の若者たちの流行語である若者言葉の造語法の特徴を詳しく分類し、その発生の原因及び傾向に関して考察を行いたい。

## 2. 先行研究及び問題提議

### 2.1 若者言葉の定義

今まで若者言葉ということばに関しては様々な定義が行われてきた。まず井上(1988: 562), 米川(1996, 2000b, 2009), 小矢野哲夫(2006)など, 先行研究における若者言葉の定義をまとめると, 「若者言葉は個人差はあるものの主に10代前後から30代前後に至るまでの若い世代の集団が使う言葉であって, 集団語のような性格も持っている」と言えよう。しかし, 実際に若者言葉は必ず若者だけに使われるわけでもなく, 一般にも広く知れて年配の人々も使うようになった若者言葉も少なくない(e.g. ウザイ・KYなど)。このような点から, 若者言葉は主に若者が使う言葉ではあるが, その使用が必ずしも若者に限定されないし, だからといって全ての若者が必ず使う言葉でもないこと

が分かる。よって、ある言葉が若者言葉であるための最低限の条件を絞ると、「若者の間で流行り出した言葉。但し、若者は10代後半から30代前後の人を言うが、個人差が認められる」と言えよう。また、このような若者言葉は一般における流行のほどによって「一般に広く知られていない若者集団の言葉」と「一般に広く知られた若者集団の言葉」に分類できると判断する。

## 2.2 その他

他にも若者たちが若者言葉を使う時の心理や態度の他、若者の仲間意識など、使用層である若者に焦点を合わせた研究には、瀬沼文彰(2005)・中村功(2005)などが詳しい。その中で瀬沼(2005)は、若者たちが若者言葉を使う理由を彼らの「聞き下手な態度」と「笑いを意識した態度」から見いだせると述べている。続いて、主に村田(2005)・井上俊輔他(2008)・桑本(2013)など、若者言葉の意味とその機能に着目した研究も見られる。その他、小矢野(2007)・鈴木(2010)など日本語教育という側面で若者言葉に関する考察を行った研究や福原(2013)・林(2007)・朽方修一(2013)の「~みたいな」「っていうか」「ってば」など、それぞれ個別の若者言葉に関して考察を行った研究も見られる。

そして、若者言葉はその造語法によって分類した研究があげられるが、若者言葉に関する研究は皆少なからずその造語法に関して触れていて、このような研究は比較的に進んではいると言えよう。例えば、米川(1998)では若者言葉を造語法などによって以下の(1)ように分類していて、米川(2000a)では若者言葉の言葉遊びとしての特徴を以下の(2)のようにあげている。

### (1) [若者言葉の造語法]

- |         |          |                |                  |
|---------|----------|----------------|------------------|
| a. 借用   | e. 言い換え  | i. 混交          | m. 動詞の複合         |
| b. 省略   | f. 頭文字化  | j. 動詞の派生       | n. 名詞の複合         |
| c. 倒置   | g. もじり   | k. 名詞の派生       | o. 音の転化          |
| d. 読み替え | h. 語呂合わせ | l. 形容詞・形容動詞の派生 | (米川1998 : 50-64) |

### (2) [若者言葉の言葉遊びとしての特徴]

- a. 語呂合わせ(いただきマンモス など) b. もじり(アリラー (< アムラー) など)  
 c. 読み換え(だつりき< (脱力) など) d. 言い換え(ホワイトキック(< しらける)など)  
 e. 漢字の分解による (彦貞 (< 顔) など)  
 f. 頭文字化 (MMK (< もててもてこまる) など)

- g. なぞなぞ式しゃれ (ネズミしばく (= ディズニーランドに行く) など)  
 h. 形容に基づく転義 (バーコード (頭が禿げた) など)  
 i. 人にたとえる (聖子ってる など) 米川(2000a)

今まで先行研究における若者言葉の造語法は上記の(1)と大差はないが、その中でも方韻(2013)は若者言葉における古語の借用(e.g. いとおかし=非常におかしい)などを指摘し、松田(2006)と井上(2006)はそれぞれネットにおける新しい若者言葉の造語法(e.g. ネット方言: 漏れ=俺)に関して考察を行うなど、新しい造語法を取り入れつつある。しかし、今までの若者言葉の造語法に関するほとんどの先行研究は、上記の(1)を含め、省略(縮約)・派生など「形式」の側面からみた造語法(e.g. 動詞派生: 体言+ル, 神る)と、転義・もじりなど集団内で共有する情報を基盤とする「文脈」の側面からみた造語法(e.g. Bダッシュ, あかり)を区別せずに羅列している。本稿では前者を「語構成」と、後者を「コンテキスト」とするが、稿者は位相が異なる両造語法を同カテゴリとして括って扱うことは若者言葉の造語法を考察するに適していないと考える。何故なら、若者言葉には若者の集団内における文脈、つまり「コンテキスト」を基盤として生まれた核となる「概念」が、特定の「語構成」によって「具現化」されるからである。例えば、米川(1998)では(2)b)の「アリラー」という若者言葉を上記の(1)g)の「もじり」に当たると分類したが、これは「アリラー」が「アムラー」という先行する若者言葉に対するパロディーで作られたという文脈を基盤とした言葉とみた、つまり「コンテキスト」の造語法による分類である。しかし「アリラー」という語はその「語構成」という側面から見ると「体言+ラー+ダー」といった「体言に当たる何かをする人或いは好きな人」という意味を表す言葉であって、(1)k)の「派生・名詞派生」のような若者言葉の造語法にも当たるとも言えよう。ちなみに、本稿ではこれを「付けたし」と分類した(4.1.1.6節参照)。一方、若者言葉が生まれるに際して「コンテキスト」と「語構成」はそれが現れる「媒体」(e.g. ポケベル, パソコン, 口語)の影響も受ける場合が多い。例えば、「アップロード・up」のキーボード誤入力によって生まれた「うp」や携帯メールで見られるギャル語の

1) あか: 赤。早稲田大学の近辺にある飲食店「レッドピーマン」の別称。「赤いく?」のように使われる。『早稲田大学キャンパス言葉辞典』の「あ行」より。

「オヤスミ：おやすみ」などがあげられる。もちろん、「語構成」そのものから若者言葉の「コンテキスト」が生まれる場合も存在するし、逆に「コンテキスト」のみで若者言葉が生まれる場合もある。例えば、「死ね」を分解して破字にした「タヒね・死ね」や「けいたい」を「|ナL、ナニレ、」のように表記したギャル語などの若者言葉は「語構成」の原理そのものが「コンテキスト」になって若者言葉の「集団語」としての性格を高めている。また、「ロールキャベツ<sup>2)</sup>」のような若者言葉は、既存の語彙をそのまま使っていて「語構成」における変化はないが、集団内のみで通用する新しい意味を与えた「コンテキスト」のみで若者言葉を生み出している。また、今までの先行研究には最近のネット用語・オタク用語など特定の趣味の集団語で見られる若者言葉における新しい造語法に関する考察もあまり行われておらず、このような新しい造語法における考察も必要とされる。従って本稿では、先行研究を踏まえて、「コンテキスト」と「語構成」の造語法を中心として「媒体」という側面も考慮しながら若者言葉の造語法を再検討したい。

### 3. 調査資料及び方法

本研究では現代日本の若者言葉をその生成方法によって細かく分類し、それぞれの造語法の特徴を明らかにするために、口語的な性格が強くて若者言葉の出現頻度が高いと思われるテキストを調査対象にした(以下、(3)参照)。

#### (3) [調査対象]

- a. KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 少納言
  - 1) 「Yahoo!知恵袋」(2005)
  - 2) 「Yahoo!ブログ」(2008)
- b. 「Yahoo!知恵袋 - みんなの知恵共有サービス」
- c. 「現代用語の基礎知識」
- d. 「日本語俗語辞典」
- e. 「若者言葉辞典~あなたはわかりますか?~」
- f. 「実用日本語表現辞典」
- g. 「早稲田大学キャンパス言葉辞典」(1997)
- h. その他(インターネットのブログ、ウェブページなど)

2) ロールキャベツ：外見はまるで草食系のように見えるが実際の本性は肉食系である人を例えている若者言葉。

## 4. 本論

若者言葉には上記の(2)のような言葉遊びの要素が見られる点、曖昧な表現が多い点(桑本, 2013 : 69)など、色々な特徴が見られるが、本稿では若者言葉の特徴として何より「不透明性」をあげたい。ここでいう「不透明性」とは、桑本(2013 : 69)による「隠語性<sup>3)</sup>」と似通った概念で、その背景になる文脈に関する知識なしに人が初めて接する語彙の意味を把握できる度合いを指すものである。詳しく言うと、若者言葉は一般的な語彙とは異なって若者の集団内或いは世代内で流行る言葉であって、よそ者にとってはその意味がまったく分からない、つまりその意味が「不透明」である。このような若者言葉の意味における「不透明性」は、2.2節で述べたように、基本的に集団語的な性格、つまり若者言葉を構成する二つの主な構造である「コンテキスト」と「語構成」から由来したもので、以下の(4)b-dのような集団語の特徴を見れば理解できる。

#### (4) [集団語の特徴]

- a. 各集団ごとの語の志向が異なる。たとえば犯罪者は隠語指向など。
- b. 一般語にあまりない造語法で語を造っている。
- c. 同義語が多い。
- d. 狭い範囲にのみ通じる言葉が多く、ヨソ者には分からない言葉である。
- e. ヨソ者が知って使用することで通ぶることができる。
- f. 古くからある集団は和語・漢語を用いることが非常に多いが、新しい集団は外来語や頭字語を用いることが多い。
- g. 専門語を除けば、集団語は多く俗語に属する。 米川(2000b)

#### 4.1 「コンテキスト」と「語構成」の造語法

それでは、若者言葉の意味を「不透明」にする「コンテキスト」と「語構成」とは具体的にどのようなものであろうか。若者言葉の意味における「不

3) 元の語形や意味が復元しにくいということば、隠語性がたかいということであり、そのこと自体は若者からすると他集団から理解されにくいことを逆に楽しんでいることもあり…中略…若者ことばの本質的な特徴とも言える……。桑本(2013 : 69)

透明性」はまず若者の集団内のみで共有している固有の文脈・背景になる知識や情報などから由来するもので、本稿ではそれに加えて、言語遊戯などわざと若者言葉にしようとする意思や方法までも若者言葉の「コンテキスト」と呼ぶことにする。また、このような「コンテキスト」を実際の言葉に具現化する形式を「語構成」とするが、今までなかった或いは一般に知られてない「語構成」は若者言葉の「不透明性」をさらに増大させる。場合によっては「コンテキスト」より、仮名表記・縮約・付けたしなどの「語構成」によって若者言葉における「不透明性」がさらに高まることもある(e.g. MK5: 「マジでキレる5秒まえ」の略語, Majide Kireu 5Byoumae)。

本節ではこのような「語構成」と「コンテキスト」の造語法の類型を順次にあげながらそれぞれの造語法の特徴を明らかにする。

#### 4.1.1 語構成の造語法

##### 4.1.1.1 音の転換①<sup>4)</sup>

若者言葉は若者の集団、例えばキャンパス(e.g. 中学・高校・女子高・大学など)、趣味の集団(e.g. スポーツ・娯楽、アニメ、パソ通、ネット、オタクなど)などのメンバー同士の会話で流行っている言葉であって、基本的に口語的な性格が強い。よって、若者言葉には口語体に見られる音の転換がよく見られる。まず(5)のように形容詞に促音を入れて促音便化したり、(6)のようにエイ音便化することによって強調の意を表す場合がある。さらに、エイ音便化と促音便が複合的に現れる場合もある(e.g. ちっせえ: ちいせえの促音便化)。また、(7)a-bの促音の長音化、(7)cの長音の挿入、(7)d-eの促音便とエイ音便が複合的に現れた長音化なども見られるが、本稿ではこれらを合わせて長音化とする。ところが「濃い」は語幹が一音である数少ない形容詞のうちのひとつであって、音の転換において座りがよくない。その故に、(6)dの「こいい」のように、エ音便ではなくイ音便が現れる。同じ理由で、(5)dのように「濃い」ではなく、西日本の方言である「濃ゆい」を促音便化した若者言葉「こっゆ・こゆっ」も見られる。

4) 若者言葉の多様な造語法を区分し、本稿においてそれを相互参照を容易にするために造語法に任意の丸数字番号を付することにする。 e.g. ①音の転換、②表意の転換、③縮約など

##### (5) [音の転換-促音便化]

- a. ちっさ・ちいさっ: 小さい+っ c. はっや・はやっ: 早い+っ  
b. おっそ・おそっ: 遅い+っ d. こっ / こっゆ・こゆっ: 濃い+っ・濃ゆい+っ

##### (6) [音の転換-エイ音便化]

- a. ア行: エ行音+エ 1) ちいせえ: 小さい, 2) はええ: はやい  
b. ウ行: イ行音+イ 1) あちい: 暑い, 2) うしい: 薄い  
c. オ行: エ行音+エ 1) すげえ: すごい, 2) おせえ: 遅い  
d. 濃い: い行音+イ 1) こいい; \*けえ: 濃い  
cf. ちっせえ: (7)a-1 「ちいせえ」の促音便化

##### (7) [音の転換-長音化]

- a. ちいさー: ちいさっ b. はやー: はやっ c. はやーい: 早い  
d. すげー: そげえ e. ちっせー: ちっせえ(ちいせえの促音便化)

#### 4.1.1.2 表記の転換②

##### 4.1.1.2.1 ②表記の転換-文字

若者言葉は前述したように口語的な性格が強いが、それが記録、つまり文字化される過程においても新しい造語法が見られる。まず元になる語彙の表記に変化を与える造語法が見られるが、例えば(8)a・b-eのような漢字と仮名の間における転換、(8)c・dのような平仮名とカタカナの間における転換などがあげられる。これによって意味における「不透明性」が高まることが確認できる。このような②表記の転換は本稿であげる様々な造語法と複合的に現れることが多いが、若者言葉の表記には中でも仮名表記、またカタカナ表記への傾向が強い。これには二つの主な理由があげられるが、まず(8)f・gのように、特定の語彙・語句の一部を③縮約して造語するに際して、漢字より仮名表記の方が一音ずつつけて縮約し易いからである。そして、(8)hのように、カタカナ表記の方が若者言葉に多く見られる強調や誇張、激しい感情表現の意を表す時に視覚的のみならずニュアンス的にもより効果的であるからである。

##### (8) [表記の転換-文字]

- a. とくに: 特に e. 妒利: ロリータコンプレックスの③縮約「ロリ」  
b. オレサマ: 俺様 f. しょんどい: 正直しんどいの③縮約  
c. マターリ: まったりの①音の転換 g. たかし: 確かこの③縮約

d. なう：ナウ・Now

h. チョー：超、すぐくの意で⑥付けたし

## 4.1.1.2.2 ②表記の転換—媒体の変化・技術依存

以上のように、若者言葉は漢字・平仮名・カタカナという日本語の文字体系における多層性を十分に活用していることが確認できるが、前述したような若者言葉における仮名表記への転換傾向を考慮すると、(8)eのようなカタカナ語の漢字表記への転換例は異様にも見える。結論からいうと、このような造語法は若者言葉が電子機器とネットワークを通じて交わされるようになったから現れたものである。言い換えると、言葉を交わす「媒体」の変化によって若者言葉を文字化する主な手段が「書く」という行為から「入力」という行為に移ったことにその原因がある。例えば、1990年代からポケベルや携帯などが普及され始め、若者たちは仲間同士に電子機器、例えばメッセージやメールを通じてコミュニケーションするようになった。それにつれて、(9)a-bのように別の文字或いは記号などを入力して元の表記を描くように描写して表記するギャル語などが現れるようになったのである。これは一種の表記における言葉遊びであって、ここにも意味の「不透明性」を高めて仲間意識を高揚させる効果があったと見られる。

このような流れはパソコンの時代を経てネットの時代に入っても続いたが、キーボードなどによる「入力」という行為が一般化されるにつれてさらに新しい若者言葉が現れるようになった。日本語の表記における多層構造(平仮名・カタカナ・漢字)がそれを電子機器に「入力」という行為によって弄られて、数多くのバリエーションを持つ若者言葉が生まれたのである。例えば、(9)c-dのような和英変換や(9)e-f-g-hのような漢字変換における「誤入力・誤変換(以下、誤変換)」などが見られるが、最初はともかく若者たちは明らかな意図をもってこのような誤変換を多用することによって若者言葉を作り出している。さらに電子機器における日本語の「入力」という行為にはもう一つの側面を持つが、それは変換ソフトウェアの特性である(e.g. MS-IME, ATOKなど)。(9)iのように、若者たちが使用しようとする語彙の漢字を変換ソフトウェアが一発で変換してくれない場合(e.g. 姜維) 、関係のない二つ以上の漢字語を入力してからそれを組み合わせるなど(e.g. 生姜纖維→姜維) 、余計な手間が必要とされる。これが若者による言葉遊びとしての「誤変換」及び「誤変換の

放置」を誘発してしまうのであって、つまり、このような入力ソフトウェアの特性も若者言葉における②表記の転換のもう一つの要因であることが確認できる。このような若者言葉における「入力」という行為への移動は、日本語の表記における多層構造と相まって、さらに新たな若者言葉を生み出しているが、本稿ではこれを情報通信技術の発達による「媒体」の変化によって誘発された技術依存的な若者言葉の誕生と見る。

## (9) [表記の転換—媒体の変化・技術依存]

- a. オヤスミ：おやすみ, ギャル語
- b. |ナレハニレハ：けいたい, ギャル語
- c. うp：upの誤入力, ネット用語
- d. おk：okの誤入力, ネット用語
- e. 厨房：中学生である中坊の誤変換
- f. 今北産業：「今来たばかりなので今までの流れを三行でまとめてください」という文の③縮約である「いまきたさんぎょう」の誤変換
- g. 乙：お疲れ様、お疲れ様の③縮約である「おつ」の誤変換
- h. 裏山：羨ましいの③縮約である「うらやま」の誤変換
- i. 生姜纖維：三国志の登場人物である「姜維」、誤変換

## 4.1.1.3 縮約—③

縮約は、既存の文字・語・語句・文の一部を切り取ったりして短くする造語法であって、先行研究には「省略」の方が多く使われている。しかし本稿では、(10)aのような伏字なども包括する概念として「省略」ではなく「縮約」という用語を採択する。このような③縮約には、(10)k-l-mのように日本語の読みに当たるローマ字の頭文字だけを羅列する造語法(KY語)も概ね含まれる。③縮約は比較的簡単な造語である点、特定の集団の「コンテキスト」を共有していない限り元になる語を類推することが極めて難しく、若者言葉の「不透明性」にも合致している点で、若者言葉で多く見られる造語法の一つである。縮約は文字・語・語句・文・文法・頭文字など多様なレベルで行われるが、その位置によって上・中・下二箇所以上のように分類できる。また(10)g-h-iや(10)k-l-mのように②表記の転換などと複合的に現れる場合が多い。

一方、このような③縮約にもポケベルにおける数字か短文しか送受信できなかった技術的限界、また携帯におけるデータ料金などの費用の問題などの影響があった点で、③縮約という造語法においても②表記の転換のように技

術依存的な「媒体」の影響が無視できない。

#### (10) [縮約]

- a. 升：チート、チートの縮約である「チト」の伏字  
 b. メット：ヘルメット → 上略 c. むずい：むずかしい → 中略  
 d. マクド：マクドナルド → 下略 e. イントラ：インストラクター → 二箇所以上  
 f. 車校：自動車学校 → 複合語の縮約  
 g. しょんどい：正直しんどい → 語句の縮約, ②表記の転換とも  
 h. ズッ友：ずっと友達 → 語句の縮約, ②表記の転換とも  
 i. はげど：激しく同意 → 語句の縮約, ②表記の転換とも  
 j. 見れる：見られる → ラ抜き言葉  
 k. KWSK：詳しく, KuWaShiKu → ローマ字の頭文字, KY語・ネット用語, ②表記の転換とも  
 l. ATM：あいつたまにむかつく, Aitsu Tamani Mukatsuku  
 → 語句のローマ字の頭文字, KY語, ②表記の転換とも  
 m. KS：既読スルー, Kitoku Suru, メッセージを読んだのに返事しないこと  
 → 語句のローマ字の頭文字, KY語, ②表記の転換とも

#### 4.1.1.4 拡張④

若者言葉には③縮約によってその「不透明性」を高める場合が存在するが、それとは逆に元の語、特に漢字語の文字を分解・破字にする若者言葉であって、本稿ではそのような若者言葉の造語法を④拡張とする。

#### (11) [拡張]

- a. ネ中：神, 分解・破字 b. 矢口：知, 分解・破字  
 c. タヒ・死：死, 「死」の一部を③縮約してから, それを分解・破字

#### 4.1.1.5 再配列⑤

再配列は既存の語彙の配列を変える造語法で、颠倒・倒置ともいう。このような若者言葉を「倒語」とも言うが、若者の間では会話を楽しむ目的で多く使われる造語法である⑤再配列は、(12)bのように③縮約、(12)cのように①音の転換—長音化、(12)dのように②表記の転換などと伴って現れたり、(12)eのように多数の造語法と伴って現れたりして「不透明性」を高めている。

#### (12) [再配列]

- a. まいう：うまい b. グラサン：サングラス, ⑤再配列+③縮約  
 c. ワンフー：ファン, ⑤再配列+①音の転換—長音化  
 d. ぱっくん：金髪, ②表記の転換—文字+⑤再配列  
 e. ゲーハー：はげ, ②表記の転換—文字+⑤再配列+①音の転換—長音化

#### 4.1.1.6 付けたし⑥

語彙に特定の接辞など、語・語句をつけることによって意味を誇張させたり或いは和らげたり、また新たな意味を与えたりする造語法を本稿では「付けたし」とする。このような造語法は接辞の位置によって、(13)a-b-c-dのような接頭と(13)e-jのような接尾に大きく分類できる。更に⑥付けたしによる若者言葉はその意味によって個別分類ができるが、詳しくは次のようになる。

まず、(13)a-b-cのように「超・パイプス・鬼・バリ・激・ギザ・スーパー」等々の接頭語をつけることによって、元の意味を誇張する若者言葉があげられる。現代日本の若者たちは会話を楽しむ、つまり言語生活の中で「ノリ」の要素を重視していて、物事を強調・誇張して大げさに言う傾向がある。よってこのような若者言葉が特に多く見られるのである。また、(13)e-f-g-hのように「さん・たん・君・キュン」等々、敬称や呼称をつけて特定の意味を与える場合もあるが、例えば(13)gのように男性の特徴付ける語彙に「君」を付けることで、そのような特徴を持つ男性を指す若者言葉を作り出したのである。最後に(13)i-jのように、「ラー・ダー・パー・マー／ーアン／ーてい…など」「系」などを付して、語基に来る有名人のファッションなどが好きで真似る人や語基が持つ特徴のように同系列に分類できる人という意味を表す若者言葉も見られる。このような⑥付けたしによる造語法は特定の接辞による語構成のパターン(e.g. ○○+たん：○○を可愛く呼ぶか擬人化して呼ぶ)が一度成立すると、類似したパターンの若者言葉が簡単に造語できる故に(e.g. アイドル+たん, キャラクター+たん, 物+たん等)、生産性の高い造語法であると言えよう。

#### (13) [付けたし]

- a. 超+○○：とてもの意, 接頭, e.g. 超+寒い：とても寒い  
 b. パイプス+○○：とても・最高にの意, 2013年ギャル流行語トップ10で一位,

- 接頭 e.g. バイブス+高い：ものすごく高い
- c. 鬼+〇〇：とてもの意, ⑫転用+反語の鬼, 接頭, e.g. 鬼+強い：とても強い
- d. 安定の+〇〇：〇〇のであれば失敗しなく満足な結果を見せる, 〇〇+安定とも言う, 接頭+接尾, e.g. A：週末何する。B：安定の原宿。
- e. 〇〇+さん：〇〇のような人, 2013年ギャル流行語トップ10で四位。主にブログで使用されて人気, 接尾, e.g. 私服さん, メイクさん, プリクラさん
- f. 〇〇+たん：元々は「〇〇さん+ちゃん」の幼児語であるが, 萌えの対象を可愛く呼ぶ時, 無生物を擬人化して可愛く呼ぶ時に使われる。但し, 女子的な可愛さ。2005年「ユーキャン新語・流行語大賞」にノミネート, 接尾
- 1) しょこたん：芸能人「中川翔子」の愛称
- 2) ハバナネロたん：ハバナネロの擬人化
- e.f. つらたん：辛い+たん, 辛い気持ちを和らげた或いは可愛く表現
- g. 〇〇+君(くん)：〇〇のような男性, 接尾
- 1) アトム君：アト+ム+君, 結婚するには年齢的に後が無い男性
- 2) パセリ君：いつまでも手を付けられず料理の皿に残っているパセリに例え, 売れ残りの男性
- 3) キープ君：本当に結婚したい相手が現れるまでにとりあえず付き合っておく(Keepしておく)彼氏
- 4) アバウト君：適当でしっかりしていない男
- h. 〇〇+キュン：「〇〇さん」と「〇〇たん」との関係のように, 「〇〇君」に対応して男子であるながら可愛さを持っている場合などに使われる, 接尾
- e.g. 神木きゅん：芸能人「神木隆之介」の愛称
- i. 〇〇+ア段音+一：英語の「~er, talk : talker」のように, 〇〇をする人, 〇〇のような人, 〇〇を好きな人などの意味, 主に「ラー」を付けたすが語末の子音によって変わる, 接尾, ⑭若者の文化とも
- 1) アユラー：女性アイドル浜崎あゆみのファッションを真似る人, はまぎきあゆみ+ラー
- 2) スマパー：男性アイドルグループSMAPのファンの意味, スマップ+パー
- j. 〇〇+系：〇〇の系列・系統の人, 〇〇のように分類できる人という意味, 接尾, ⑭若者の文化とも
- 1) あゆ系：アイドル浜崎あゆみに似ているかその雰囲気の人, はまぎきあゆみ+系
- 2) ビジュアル系：男女ともに派手な化粧やファッションをしているバンドのメンバーや一般人などの意味, ビジュアル+系

## 4.1.1.7 派生⑦

派生とは元になる語彙の語基に特定の接尾辞を付するなどして異なる品詞の語彙を派生させる造語法を言う。派生には動詞の派生と形容詞の派生, そして名詞の派生など, 大きく三つの派生に分類できるが, 本稿では主な派生である動詞・形容詞派生のみを扱うことにする。

## 4.1.1.7.1 ⑦派生-動詞派生

(14)のように, 日本語の動詞のステレオタイプでイプある「ラ行動詞+る」を基盤として, 語基が持つ様々な属性の中で一つを選び, それを動詞化する造語法を本稿では⑦派生-動詞派生とする。主に体言を動詞化するこのような動詞派生による若者言葉は, (14)a・eのように既存の動詞活用とは異なって「一段活用」に当たるにも関わらず「五段活用」をしている場合が多い点で特徴的である。しかし, このような現象の原因に関する考察は今後の課題とする。

## (14) [派生-動詞派生]

- a. サビる：錆ができる・衰えるという意味, 錆び+る, ②表記の転換とも  
e.g. 色もサビっている所もこだわっている。
- b. マクる・マクドる：マックドナルドへ行くという意味, マックドナルドを③縮約したマク・マクド+る, e.g. 今からマクる?
- c. トリる：KFCへ行く, KFCで販売しているチキンを⑨言い換えたトリ(鳥)+る
- d. ディスる：非難する, disrespectの⑨言い換え・③縮約したディス+る
- e. 神る：神のようにすごい事をするという意味, 神+る e.g. ペン回しが神ってる人。

## 4.1.1.7.2 ⑦派生-形容詞派生

前節で述べた動詞派生では「~る」という形態を動詞のステレオタイプとして動詞派生が行われたとすると, 形容詞の派生では「~い~な」という形態を形容詞派生の基盤とする。(15)a・bのように, 元になる語の品詞に関わらず, 語基が持つ属性の中で一つをつかみ, 形容詞に派生するが, 本稿ではそのような造語法を⑦派生-形容詞派生とする。その他にも, (15)c・d・eのように, ⑦派生-動詞派生によって造語された若者言葉の動詞を「~ている」という形態にして複合的に若者言葉にする造語法も存在する。

## (15) [派生-形容詞派生]

- a. グロい：異様で気味の悪いさま、グロテスクを③縮約したグロ+い
- b. ナウいナウな：今風な、nowの⑨言い換えであるナウ+いな
- c. 神ってる：とてもすばらしい、神の⑦派生-動詞派生である神る+ている
- d. 嵐ってる：用件・メールなどが嵐のように殺到する様子、嵐の⑦派生-動詞派生
- e. エンドってる：終わっている、endの⑨言い換えのエンドを⑦派生-動詞派生

#### 4.1.1.8 段階 繰り返し⑧

若者言葉にはまるでGoogleの検索結果のインデックスである「Gooooogle」のように、同一パターンでの繰り返しや段階的な表現をおくことで様態の程度を表す造語法もあるが、本稿ではそれを⑧段階 繰り返しとする。

#### (16) [段階 繰り返し]

- a. やばば：非常にやばいという不定的な意味。「ば」の数でそのヤバさの度合いが増える、ギャル語、e.g. やばばく やばばばく やばばばば
- b. 激おこぶんぶん丸：怒りをその程度によって6段階に分類、怒りの六段階活用とも、③縮約⑨言い換えとも  
e.g. おこ → マジおこ → 激おこぶんぶん丸 → ムカ着火ファイヤー → カム着火インフェルノオオオオオウ → 激おこスティックファイナリアリティぶんぶんドリーム

#### 4.1.1.9 言い換え⑨

若者言葉には、元になる語の全部或いは一部を英語などの外国語に変換したりすることで不透明性あげる造語法が存在するが、本稿ではそのような造語法を言い換えとする。中には(17)a・bのように、意味の通じない英語に無理やり直訳或いは誤訳した若者言葉も少なくない。また(17)cのように、漢字語を間違っただけで誤読みによる若者言葉も存在する。後者の場合、②表記の転換-媒体の変化・技術依存で述べたように、書くという行為が入力に変わっていくことによって、漢字を読めるけど書けない若者の増加、また入力方法によって必ず一つの漢字語をまとめて入力しなくてもよくなったことなどからその原因を求められると考える。

#### (17) [言い換え]

- a. 山ハンド：山手線の「手」の直訳
- c. だつりき：脱力(だつりよく)の誤読み

- b. ホワイトキック：しらける、「しら」と「ける」に分けて直訳

#### 4.1.1.10 オノマトペ⑩

若者言葉には声や仕草など、オノマトペを言葉にした語彙があるが、本稿ではそのような若者言葉の造語法をオノマトペとする(以下の(18)参照)。

#### (18) [オノマトペ]

- a. わちゃわちゃ：数人でやかましくしゃべったり、騒ぎながら楽しく話し合う様子の意味、関西方言、⑫転用-方言とも
- b. てへぺろ：てれ笑い・ごまかし笑いの意味、「テヘッ」と笑って「ペロッ」と舌を出す動作、声優の日笠陽子によって流行、⑭若者の文化-有名人とも
- c. ガチしょんぼり沈殿丸：非常に落ち込んでしまっしょんぼりしている様子、ガチは非常にという意味で沈殿丸が落ち込んでいる様子、②表記の転換とも
- d. hshs：非常に興奮した時の呼吸音を表す、「ハースーハースー」→「ハスハス」→「hshs」、③縮約②表記の転換とも

#### 4.1.2 コンテキストの造語法

コンテキストより語構成の造語法が優先する若者言葉は元になる語に戻したら、その意味が相対的に分かりやすく、「不透明性」が低い。例えば「語構成」の⑤再配列の造語法によって造語された「グラサン：サングラス」や「ぱつきん：金髪」は元になる語に戻したら何とかその意味を直観的に類推することができる。しかし「ロールキャベツ：実は恋愛に積極的な女子」のような若者言葉は、集団におけるコンテキストを熟知しない限り、その意味を把握するのは極めて難しい。なぜなら、若者言葉としての意味とは別として元の表面的な意味(ロールキャベツ：食べ物)を持っている場合が少なくないからである。本稿ではこのような若者という集団のコンテキストを基盤として造語された若者言葉の造語法をコンテキストの造語法とする。

#### 4.1.2.1 語呂合わせ⑪

若者言葉には既存の語彙の全部或いは一部をそれと似通った発音を持つ別の言葉と入れ替えた言葉が見られるが、本稿ではそのような造語法を語呂合わせという。⑩語呂合わせは他にもダジャレ・親父ギャグとも言われている。このような若者言葉には、(19)aのように元の語と発音が似通った既存の語彙



をそのまま使用して単純にその発音の類似性を楽しむ語、(19)b-c-dのように元の語の一部を発音が似通った別の言葉と入れ替えて笑いを取る語などがある。もちろん、前者は既存の言葉をそのまま使用した点で次節で述べる⑫転用とも考えうるが、語の発音や読みの類似性による造語である点を考慮して本稿では⑪語呂合わせとして分類することにした。このように⑪語呂合わせは意味の関連性より発音の類似性をもって造語する故に、⑦派生のように一定の造語パターンが存在しに難く、個別的である。よって、⑪語呂合わせは流行に敏感になり易い上でその寿命も比較的短い。

#### (19) [語呂合わせ]

- a. ベッケンバウアー：別件がある      d. ~してちょんまげ：~してちょうだい  
b. いただきマンモス：いただきます      e. こちそうサマンサ：ごちそうさま  
c. そんなバナナ：そんな馬鹿な

#### 4.1.2.2 転用-⑫

若者言葉の中では既存の言葉とその形態は同じであるが、特定の文脈或いは文化的なコードを背景とした特殊な意味が付された言葉が存在する。本稿ではそのような造語法を⑫転用とするが、それを更に分類すると比喩・反語・古語・方言などになる。⑫転用による若者言葉は既存の言葉の意味もある上で、更に集団内で共有されている特定のコンテキストを基盤としている故、他の造語法より不透明性が高い。しかし一度そのコンテキストを理解すると、集団内の会話を楽しめる点で若者のみならず若者の文化に関心がある一般の人々の間でも人気を集めている。

##### 4.1.2.2.1 ⑫転用-比喩

⑫転用の代表的な造語法である⑫転用-比喩は、形容或いは属性など、既存の言葉から連想させるイメージを借用した造語法である。

#### (20) [転用-比喩]

- a. バーコード：髪が薄くなった頭頂部に側頭部から伸ばした髪をポマードでなにつけた髪型がまるでバーコードの形容に似ている  
b. Bダッシュ：ゲームをプレーする時、コントローラーのBボタンを押すと主

人公を走らせることから、急ぐ人やその状況を描写する時に使用

- c. ハンター：肉食系である人々の特徴である恋愛に対する積極さを獲物を狩るハンターのイメージに被せたもの

##### 4.1.2.2.2 ⑫転用-反語

⑫転用-反語は、元のなる語彙のイメージを利用している点で比喩とも似通っているが、そのイメージを逆に捕らえて反語的に使う点で区別される。

#### (21) [転用-反語]

- a. やばい：すごく良い、元は危険な・ダサイなど、不定的な意味のみで使用されていたが、90年代に入ってから反語的に「すごくすばらしい」という意味としても使えるようになった若者言葉、e.g. やばい〜あの人：格好いい〜あの人  
b. 鬼+〇〇：すごく良い、元はひどい・悪いなどの意味であったが、形容詞などに付いて反語的に「すごく〇〇」のようにも使われる。(13)cのように語構成という観点からは⑥付けたしとも、e.g. 鬼美味しい：すごく美味しい

##### 4.1.2.2.3 ⑫転用-方言

若者たちによって特定の方言が多用されて若者言葉として流行る場合があるが、本稿ではこのような過程による造語法を⑫転用-方言とする。

#### (22) [転用-方言]

- a. むかつく：腹が立つ、大阪方言  
b. めっちゃ：とても、水泳選手である田島寧子の「めっちゃ悔しい」という発言によって流行語になった、大阪方言、⑭若者の文化-有名人とも  
c. ~じゃん(か)：~ではない(か)、山梨或いは愛知・静岡方言  
d. ウザイ：不愉快 わざらわしい・邪魔・目障りなど、多摩方言、③表記の転換とも

##### 4.1.2.2.4 ⑫転用-古語

方韻(2013)も指摘したのように、若者たちがわざと古語を使い、それが若者の間で流行りだす場合があるが、本稿ではこのような造語法を⑫転用-古語とする。学校で習った古典に出てくる語彙や表現を現代語に混ぜて使うことであって、そうすることによって会話の中で面白さと格好良さを感じられると言われている。

## (23) [転用-古語]

- a. いと：非常に, e.g. いとおかしい, いとうれしい  
 b. こちこ：こっちへいらっしゃい

## 4.1.2.3 態度-⑬

若者言葉は若者の集団語であって、当然ながらコミュニケーションに際して若者たちが取る態度や仲間意識はその言葉、つまり若者言葉に大きな影響を与えることになる。本稿ではそのような若者がコミュニケーションに際して取る姿勢・言い方・意識ないどを含めて⑬若者の態度とする。それでは、若者たちは言語生活に際して、どのような態度を取っているのか。それに関しては瀬沼文彰(2005: 296-297)が詳しいが、同氏は若者たちの「態度に見る会話の特徴」を1)聞き下手な態度, 2)笑いを意識した態度であると述べた上で、若者たちの「言葉使いにみる会話の特徴」を1)人の真似の会話, 2)言葉の短縮, 3)あいまい語, 4)敬語を使えない会話であると述べた。まず、若者は自分主体の会話をする傾向が強く、若者たちの会話には「自分は」「私なんか」「私的には」のように自分の意見を述べようとする表現が多く見られるし、相手が自分のことを知っていることが当たり前なことのようになり、否定疑問形で「私って映画好きじゃないですか、だから明日観に行くっす」のような言い方や、無理やり自分の話に変えるために「っていうか」「逆に言うと」のような話題転換の言葉も頻繁に使用している。また、4.1.1.6節で述べたように、若者たちは会話においてノリ、つまりその場の雰囲気や笑い取ることを重要視している。しかし、このような傾向は特定の個別語に見られる特徴ではなく、若者言葉全般に見られる一般的な特徴であって、言うまでもなく「コンテキスト」の一項目に限定するものでもない。従って、本稿ではこのような若者たちの「聞き下手な態度」と「笑いを意識している態度」を若者言葉における一般的な傾向として処理し、個別の項目としてはあげないことにする。一方「あいまい語」と「敬語を使えない会話」という若者たちの会話における特徴をそれぞれ⑬態度-曖昧, ⑬態度-新しい敬語という項目としてあげて、⑬態度-誇張と共に本節で詳しく述べることにする。ちなみに、既に⑬縮約で述べた「言葉の短縮」を除いて、「人の真似の会話」は次節で⑬文化-流行という造語法の項目で述べることにする。

## 4.1.2.3.1 ⑬態度-曖昧

前節で述べたように、若者たちによる会話の特徴はとしてみず、断定的な表現を避け、曖昧な表現を好んで使う傾向があげられる。本稿ではそれを⑬態度-曖昧とするが、例えば「何をしていますか?」という質問に対して、「一応、学生です」のようにはっきり答えない若者が少なくない。「それ美味しい?」という問いに、「美味しくくない?」のように聞き返す。以下の(24)のように、会話において判断や回避の余地を置くことで、相手との対立を避け、責任を取らないようにしている若者たちの態度がそのままコミュニケーションで若者言葉として現れていることが確認できる。このような傾向に対して、少子化による親便りの傾向或いは他人の意見や話の流れに従おうとする日本人の遠慮の文化によるものだという意見もある。

## (24) [転用-曖昧]

- a. ~みたいな(あ)：美味しいみたいなあ。      b. ~かも：美味しいかも。  
 c. 何気によさげ：何気によさげじゃん  
 d. ~的：~のような、「私的にはオッケー」「もしかして、お酒飲めない的な?」  
 e. 微妙：「今日いける?」「っていうか、微妙。」  
 f. ~って感じ：えっ?もう帰るって感じ?  
 cf. ~じゃない(ですか)：否定疑問形、「私って、パンが好きじゃないですか。」

## 4.1.2.3.2 ⑬態度-新敬語

現代には敬語の使用が苦手な若者が多いが、だからといって若者たちが敬語を使おうとしないわけではない。瀬沼文彰(2005: 297)・倉持益子(2009)によると、「最近、年上の人との会話のなかで「……です」ではなく、「……っす」「……すっか?」という新語を敬語のように使う人が多い」と述べている。つまり、若者言葉における一種の新敬語の誕生だとも言えるだろう。

## (25) [態度-新しい敬語：~(っ)す]

- a. こんにちはす：こんにちは。      c. 申し訳ないっす：もうしわけないです。  
 b. うれしいっす：うれしいです。

## 4.1.2.3.3 ⑬態度-誇張

先に⑥付けたしでも述べたが、若者たちの言語生活のもう一つの特徴として、誇張の表現の氾濫があげられる。⑫転用-方言の「めっちゃ・バリ」、⑥付けたしの「激・超・ぎざ・鬼」など、つまりとても・ものすごく・相当などなど、物事を誇張している若者言葉が多く見られる。本稿ではこのような流れによる造語法を⑬態度-誇張とする。これは一次的には日本語における形容詞の不足、そしてノリを重視する若者たちの態度からもその原因が求められると稿者は判断する。

#### 4.1.2.4 若者の文化-⑭

若者言葉は若者たちの態度のみならず、集団内で共有されている若者の文化や流行などによっても大きな影響を受けている。若者たちが常に興味を持っている芸能人・有名人の言動、お笑い番組・アニメ・映画・漫画・音楽などのメディアにおける流行、そして周りの仲間たちと共有する集団文化と言葉などは若者同士の相互模倣によって若者言葉になる。稿者はこれを瀬沼文彰(2005: 296-297)が言う若者たちの「言葉使いにみる会話の特徴」の一つとしてあげられた「人の真似の会話」とも関係があると考え。まず(26)のように、若者たちは有名人の数々の発言や流行語を愛用して若者言葉として受け入れている。順番に、テレビ番組、ブログ、小説、有名人の容貌・行為などの影響によって若者言葉が生まれていることが分かる。本稿ではこのような造語法を⑭若者の文化-有名人とする。

また、若者の間での流行によって若者言葉が生まれる場合があるが、(27)aのような流行のファッション、(27)b-cのような流行の文化(韓流)などによって若者言葉が造語されるが、これを本稿では⑭若者の文化-流行とする。

最後に、若者の文化と言えば、彼らの集団文化を除いて説明するのは難しい。大きくは趣味の集団から、小さくは周りの若者の集まりに至るまで、若者たちは多様な集団文化を営んでいるが、そのような特徴は集団語である若者言葉を見ればより明らかになる。例えば、(28)aのパソコン時代におけるパソコン用語、(28)bのようなネット用語、(28)cのようなアニメ・漫画におけるアニメ用語、そして(28)dのような特定のコミュニティで通用するコミュニティ用語・ネット用語など、若者たちの集団における文化は、多様な若者言葉を造語しているが、本稿ではそのような造語法を⑭若者の文化-集団文化とする。

#### (26) [若者の文化-有名人]

- a. そんなの関係ねえ! : お笑い芸人である「小島よしお」の流行語、有名人・お笑い番組、2007年「ユーキャン新語・流行語大賞」トップ10、①音の転換とも
- b. BIG LOVE : 「とても好きで、愛していて、そしてありがとう」という意味、俳優中尾明慶と仲里依紗の夫婦、有名人・ブログ、e.g. BIG LOOOOVE
- c. Hする : 変態のローマ字の頭文字から由来。1950年代に性行為を意味する女学生たちの隠語であったが、作家である舟橋聖一の作品で使用してから一般に知られるようになる、隠語・小説、②表記の転換・③縮約とも
- d. その子 : 顔が物凄く白い人をいう。白いメークとして有名だった「鈴木その子」の名前から由来、有名人、③縮約とも
- e. ヤグる : 浮気する現場を相手にばれるの意、アイドル「モーニング娘」の元メンバー、矢口真里(やぐちまり+る)の不倫騒動で流行、2013年ギャル流行語トップ10、ギャル語・有名人、②表記の転換・③縮約・⑦派生-動詞派生とも

#### (27) [若者の文化-流行]

- a. アムラー : 安室奈美恵のファッション(超ミニスカート、底の厚いブーツ、肩まで垂らす長い髪の三点セット)を真似る人(あむろなみえ+ラー)、1996年「ユーキャン新語・流行語大賞」トップ10に入賞、⑥付けたしとも
- b. パポ : 馬鹿という意味の韓国語・마보, 三人のお馬鹿女性タレントで構成されたアイドルグループ、⑥言い換えとも
- c. オルチャン : 美少女・美男子という意味の韓国語・얼짱, 韓流の影響で主に女性の間で多く使われる、⑥言い換えとも

#### (28) [若者の文化-集団文化]

- a. ハニリト : 「FILES」の意味、「みかか変換」によるキーボード入力、パソコン用語、②表記の転換-媒体の変化-技術依存とも
- b. w : 「(笑)」の意味、③縮約して打つ表現、ネット用語、②表記の変換とも
- c. もふる : ふわふわな毛をした動物に顔をうずめたり触ったりすることを「もふもふ」と表現したことで、そのような行為をすることを「もふもふする・もふる」という。アニメ用語、⑦派生-動詞派生、⑩オノマトペとも
- d. ホルホル : 韓国語「헐헐」の誤翻訳、日韓コミュニティのウェブサイトで韓国人が入力した「헐헐」を自動翻訳機が「ホルホル」と誤翻訳されて生まれた言葉。その後、偉そうに威張る人に対して使われる。ネット用語、⑥言い換え

5) パソコン用語で「NTT(日本電信電話)」を指す言葉。日本語のキーボードのかな入力モードで「N」「T」「T」とタイプすると「み」「か」「か」と入力される事から由来。

## 5. まとめ

本稿では先行研究を踏まえて「若者言葉は10代後半から30代前後の若者で構成された集団によって流行り出した言葉」と定義し、若者言葉はその内容となる「コンテクスト」と形式である「語構成」が「媒体」による影響を受けながら「不透明性」を高めることで造語される点を明らかにした。それを踏まえて若者言葉の造語法の特徴を分類してまとめると(29)のようになる。

### (29) [若者言葉の造語法]

#### a. 語構成の造語法

- ① 音の転換, ② 表記の転換 - 1) 文字, 2) 媒体の変化・技術依存
- ③ 縮約, ④ 拡張, ⑤ 再配列, ⑥ 付けたし, ⑦ 派生 - 1) 動詞派生, 2) 形容詞派生
- ⑧ 段階繰り返し, ⑨ 言い換え, ⑩ オノマトペ

#### b. コンテクストの造語法

- ⑪ 語呂合わせ, ⑫ 転用 - 1) 比喩, 2) 反語, 3) 方言, 4) 古語
- ⑬ 態度 - 1) 曖昧, 2) 新敬語, 3) 誇張
- ⑭ 若者の文化 - 1) 有名人, 2) 流行, 3) 集団文化

### <参考文献>

- 井上史雄(1988)「若者語」『日本語百科大事典』金田一春彦他, 大修館, pp.562-569.  
 \_\_\_\_\_(1994)『方言学の新天地』明治書局, pp.1-259.  
 井上俊輔・中元祐司・原田知典(2008)「コンテクストにゆれる日本: 若者言葉から見る日本人の現状」『早稲田社会科学総合研究, 別冊, 2008年度学生論文集』早稲田大学社会科学学会, pp.223-232.  
 井上逸兵(2006)「ネット社会の若者ことば(特集 若者ことば大研究-変容するコミュニケーション環境の中で)」『月刊言語』35-3, 大修館書店, pp.60-67.  
 川崎洋(1981)『流行語』毎日新聞社, pp.1-246.  
 枡方修一(2013)「キャラクターと文法 - 『NARUTO』に現れる提題表現「ってば」について」『Japanisch als Fremdsprache』Vol. 3, Japanisch an Hochschulen e. V., pp.59-75.

- 倉持益子(2009)「新敬語「ス」の使用場面の拡大と機能の変化」『明海日本語』第14号, 明海大学・日本語学科, pp.25-35.  
 桑本裕二(2003)「若者ことばの発生と定着について」『秋田工業高等専門学校研究紀要』第38号, 秋田工業高等専門学校, pp.113-120.  
 \_\_\_\_\_(2013)「若者ことばにおける曖昧表現の形態および意味構造の変異について - テレビドラマのデータベースの通時研究への利用を目指して」『秋田工業高等専門学校研究紀要』第49号, 秋田工業高等専門学校, pp.68-75.  
 小矢野哲夫(1990)「若いモンのことば「現代語」」『国語展望』84, 尚学図書, pp.2-6.  
 \_\_\_\_\_(1994)「女子大学生のキャンパスことば」『日本語学』10月号(特集: 若い女性のことば), 明治書院, pp.45-53.  
 \_\_\_\_\_(2006)「若者語は集団語か」『日本語学』25(10, 特集: ネット社会の集団語), 明治書院, pp.14-24.  
 \_\_\_\_\_(2007)「若者ことばと日本語教育」『日本語教育』134, 大阪外国語大学, pp.38-47.  
 鈴木睦(2010)「変わりゆく日本語と日本語教育の今」『Journal CAJLE』Vol. 11, カナダ日本語教育振興会, pp.10-22.  
 瀬沼文彰(2005)「若者ことばをフィールドワークする」『コミュニケーション科学』(22), 東京経済大学, pp.295-323.  
 中村功(2005)「携帯メールのコミュニケーション内容と若者の孤独恐怖」『メディア』橋元良明編, ひつじ書房, pp.1-264.  
 原田幸一(2013)「一橋大学キャンパスことば調査」『一橋大学国際教育センター紀要』(4), 一橋大学国際教育センター, pp.109-121.  
 林千賀(2007)「ブログからみえる若者言葉の『ってゆうか』: 社会言語学的研究への示唆」『国際文化研究所紀要』12, 城西国際大学, pp.75-90.  
 福原裕一(2013)「「~みたいな」表現の分析」『国際文化研究』19, 東北大学国際文化学会, pp.101-116.  
 方韻(2013)「若者ことばにみる特徴的表現の一考察」『日本学刊』第16号, 香港日本語教育研究会, pp.136-144.  
 洞澤伸・村瀬仁美(2014)「若者言葉「フツーに」と「フツー(だ)」が表す程度の相違について」『岐阜大学地域科学部研究報告』(35), pp.25-41.  
 村田和代(2005)「ボライトネスから見る若者ことばの機能: 龍谷大学キャンパス語の分析を通して」『龍谷大学国際センター研究年報』14, 龍谷大学, pp.25-37.  
 松田謙次郎(2006)「ネット社会と集団語 (特集 ネット社会の集団語)」『日本語学』25(10), 明治書院, pp.25-35.  
 米川明彦(1996)『現代若者ことば考』丸善ライブラリー, pp.1-242.

- \_\_\_\_\_ (1998) 『若者語を科学する』 明治書院, pp.1-66.  
\_\_\_\_\_ (2000a) 『集団語こ見ることば遊び』 『日本語学』 19-1, 明治書院, pp.54-64.  
\_\_\_\_\_ (2000b) 『集団語辞典』 東京堂出版, pp.1-853.  
\_\_\_\_\_ (2009) 『集団語の研究 上巻』 東京堂出版, pp.1-672.

<Abstract>

Young people's words of modern Japanese: Focused on structure and classification by word-formation

Kim, Yu-Young

In this paper, young people's words were defined as 'Words are set the new fashion by the groups of young people from about 10 to 30' based on previous studies from this research and carried out an analysis of the young people's words appearing in a number of text data, such as Japanese text corpus.

Through this method, it is found that young people's words consist of 'context' and 'word composition' under the influence of the 'media' and as a result, 'opaqueness' of their meaning is enhanced. And based on this, their special features of word-formation could be classified and organized. To summarize this briefly, as follows.

<The word formation of young people's words>

a. The word composition for word-formation

- ① Conversion of sound, ② Conversion of writing – 1) Characters, 2) Change of medea·Technology dependent.  
③ Abbreviation, ④ Expansion, ⑤ Rearrangement, ⑥ Addition  
⑦ Derivation – 1) Derivative verb, 2) Derivative adjectives  
⑧ Gradation·Repetition, ⑨ Paraphrase, ⑩ Onomatopoeia

b. The context for word-formation

- ⑪ Play on words,  
⑫ Appropriation – 1) Metaphor, 2) Irony, 3) Dialect, 4) Classic language  
⑬ Attitude – 1) Ambiguity, 2) New honorific, 3) Exaggeration  
⑭ Culture of young people – 1) Celebrity, 2) Fashion, 3) Group culture